

いのちをまもる家の「たいしん」^{いえ}

～なまずがあばれ出す前^だに～^{まえ}



私が下じきになった日

こうべ し りつ だい こく しょう がっ こう せん だ さ き
神戸市立 大黒小学校 仙田早希

私が寝ているときでした。急に体がすごく重たくなったので、起きようと思いました。でも、私の足にはかべがのっていたのです。なんとか足をめこうとしましたが、どうしようもありませんでした。

「助けて、助けて。」お父さんとお母さんの必死な声が聞こえてきました。ようやく私たちに何が起こったのが分かってきました。「助けて、助けて。」私も足のいたさを忘れて、おもいっきりさけびました。でも、だれも助けにはきてくれませんでした。七時になって、めがましがなりました。もう一時間以上、私たちはさけび続けていました。「もう私は助からない。このまま死んでしまうのかなあ。」と、心の中できう思いました。となりの人も助けを求めて大声でさけんでいました。そのときです。近くに住むいとこのひろえちゃんの声が聞こえてきたのです。

「だいじょうぶう。」私は、「早く助けて。」と、さけびました。これで助かると思うと、うれしさと同時に安心しました。ひろえちゃんたちが、近所の人を呼んできてくれました。まどがらをわって、出口を作ろうとしましたが、がらが飛び散ってとてもきけんでした。そこで、土かべに穴をほって声のする方へ進んで行きました。まず弟が、次にお母さん、お父さんのプルーフと助けだされていきました。ところが、私と、お父さんの体の上にはかべが重くのしかかりなかなかでることができませんでした。近所のおじさんが、かべをひっぱりだしてくれました。お父さんも助かりました。でも、お父さんの頭にはくぎがささり、血がにじんでいました。私はこわかったのですと泣いていました。

近所の人のお車に乗せてもらって、いとこの家へ行きました。ひろえちゃんの家もぐちゃぐちゃでした。私はここが神戸なのか分からなくなりました。

出典：神戸市小学校 教育研究会 国語部 作文集「はぐるま」

1995年1月17日。こうべで大きな地しんがありました。はんしん・あわじ大しんさいとよばれています。この地しんでひがいにあった、みなさんと同じぐらいの年のお友だちのさくぶんです。



いのちの大切さ

い^ちど^うし^なったいの^ちは二^にど^ともど^りませ^ん。みな^{さん}一^{ひと}り^ひど^りが^{たい}せ^つな^いの^ちをも^って^いま^す。

でも、か^のこの^じ地^{しん}で^{たい}せ^つな^いの^ちが^たく^さん^うし^なわ^れま^した。また、いの^ちは^たす^かつ^ても、^おお^おけ^がを^した^{ひと}も^いま^した。

この^よう^なか^なしい^こと^がお^こら^ない^よう^にす^るた^めに^は、^いま^まで^にひ^がいの^あつ^た場^しよ^から^しっ^かり^まな^じ学^び、^く地^{しん}が^く来^る前^まに^しっ^かり^とそ^なえ^るこ^とが^{たい}せ^つな^いの^ちが^たく^さん^うし^なわ^れま^した。また、いの^ちは^たす^かつ^ても、^おお^おけ^がを^した^{ひと}も^いま^した。

に^{かん}が^を考^えて^みま^しよ^う。





地しんはかならずやってくる

● 地きゅうは生きている

わたしたちがくらす地きゅうは、生きています。生きているから、わたしたち人るいもたん生しました。山も川も海も、自ぜんはみんな地きゅうが作りしました。これまで46おく年というとても長い年月を生きています。生きているから、時に地しんや火山のふん火などのさいがいを引きおこします。



● 地しん3兄弟

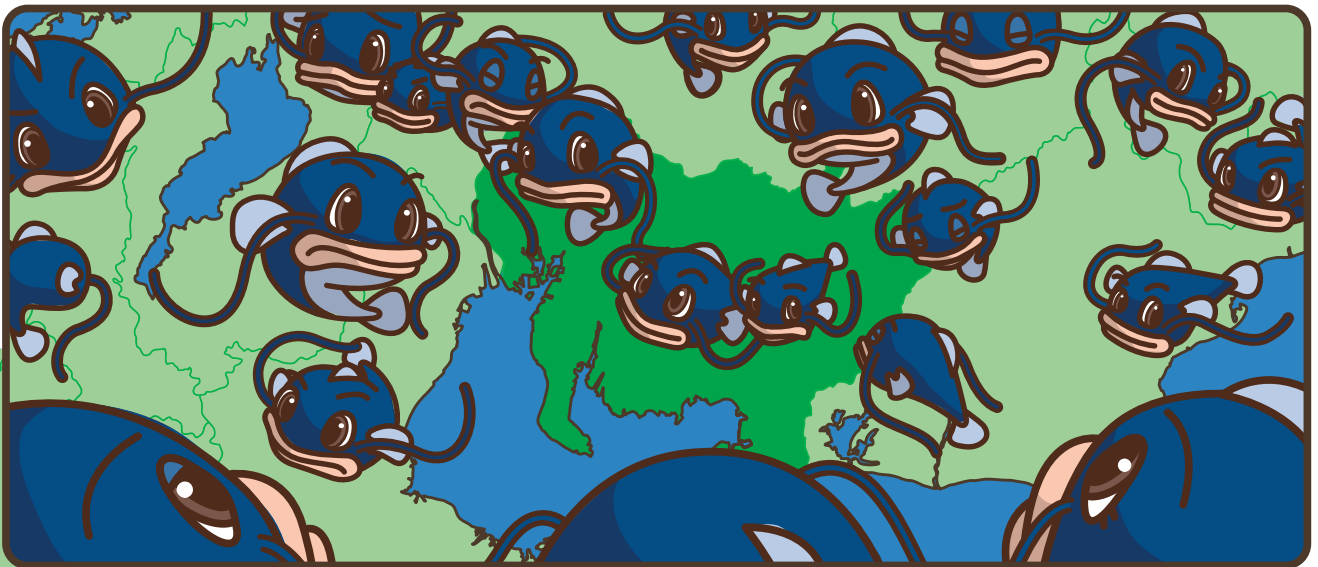
わたしたちがすんでいる日本の南の海には、地しんを引きおこす「南海トラフ」という海のみぞがあります。これまでも約90年から150年の間かくで、くりかえし地しんをおこしてきました。その地しんの名前を「東海地しん・東南海地しん・南海地しん」と言います。まるできょ大なますが、ある時にはいっしょに、また、ある時には一ぴきずつ、あばれているかのようです。

発生年 / 地震名	南海エリア	東南海エリア	東海エリア
1605年 / 慶長地震			
1707年 / 宝永地震			
1854年 / 安政地震	↑32時間後		
1944年 / 東南海地震(昭和)			150年以上おこし大地しんが起きていない
1946年 / 南海地震(昭和)			
現在			



● 地しん3兄弟の子どもたち

地しん3兄弟とはべつに、活だんそうと言われる、子どもたちのような なまずも地しんを引きおこします。これはわたしたちのくらす町の地下にあるかも知れませんが、ないかも知れません。じっさいのところは、まだよく分かっていません。それはまるで小さななまずがかくれている、とつぜんあばれ出すかのようです。



● 地しんはだれにも止められない

日本は、せかいの中でも地しんの多い国です。そして近いしょう来、わたしたちにもひがいをもたらす「東海地しん・東南海地しん・南海地しん」がやって来ます。これはだれにも止められません。



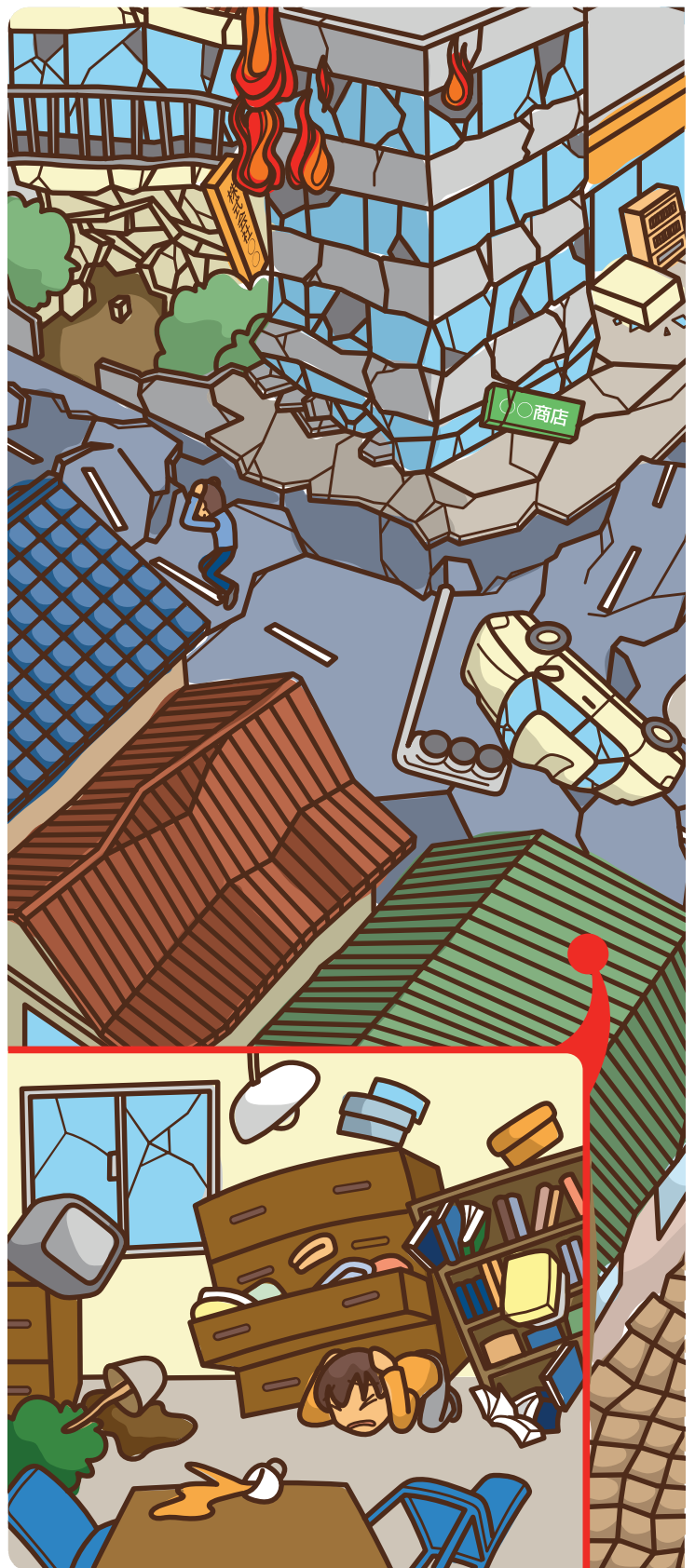
じ 地しんは何でもこわしてしまう

● じ 地しんが来たらどうなるの？

まずはとっても大きくゆれます。人間が立っ
ていられなくなるほどゆれることもあり
ます。そして「東海地しん・東南海地しん・
南海地しん」では長くゆれます。1分か
ら3分ぐらいといわれています。みなさ
んもよく歌う「ぞうさん」や「どんぐりこ
ころ」はだいたい15びょうですから、
4回から12回くりかえし歌っている間
ゆれていることになります。また、高さの
高いマンションやビルの上の方では、もっ
と長くゆれるといわれています。

● ゆれたらどうなるの？

家の中では、家ぐや テレビなど、いろい
ろなものがたおれたり、ガラスが われ
たりします。また、家そのものがかたむ
いたり、たおれてしまうこともあります。
家の外では、道ろがゆがんだり、はしが
おちたり、またブロックべいがかたおれたり、
かわらや かんばんがおちてくるなど、
さまざまな ひがいが出ます。





● そのほかのひがい

地しんはゆるるだけではありません。海では「つなみ」と呼ばれる数メートルものきょ大ななみがおそってきます。また町ぜん体が水たまりのようになってしまう「えきじょうか」もおこります。そのほか、いったん火さいがはっ生すると、町ぜん体がもえてしまうこともあります。また、電気や水道、ガスが止まるので、たとえば高さの高いマンションではエレベーターにとじこめられたり、つかえなくなります。また、何十かいとかいだんでひなんしなければならぬ場合もあります。



● 家がこわれると…

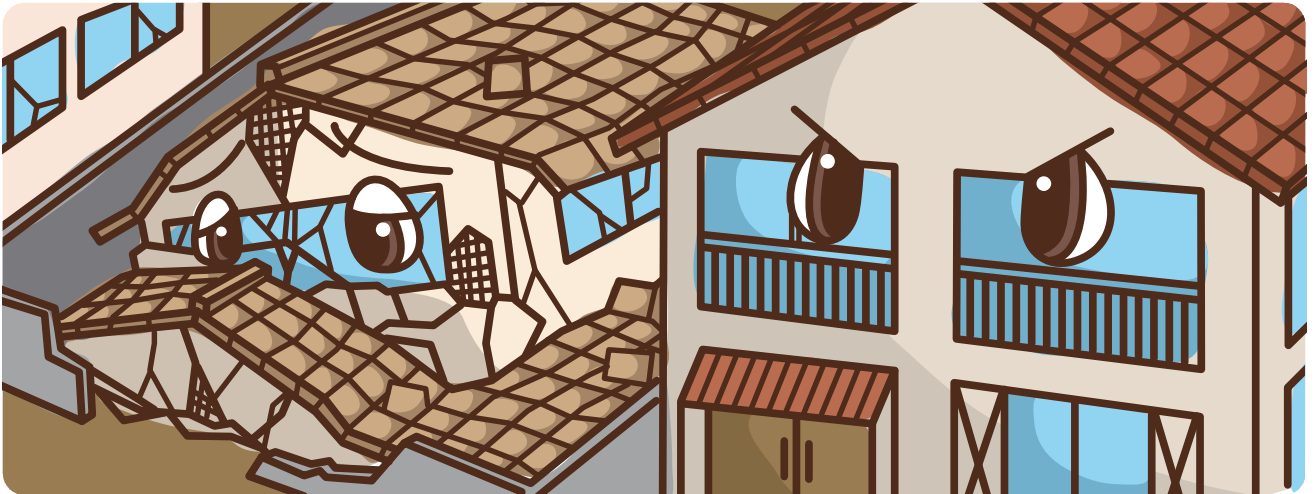
さいしょのページでしようかいした作文を書いたお友だちは、はんしん・あわじ大しんさいでひがいにあいました。この地しんでなくなった人は6,434人にも上ります。その多くの人は、家でなくなりました。地しんのはっ生が午前5時46分で、ほとんどの人が家ぞくといっしょにねていた時におこったからです。「ドーン」という大きな音とともにとてもはげしいゆれがおそい、家がこわれました。家の下じきになって多くの人がなくなったということを、けっしてわすれてはいけません。



できることから始めよう

● 「たいしん」=地しんにまけない家にすもう

「たいしん」という言ばをおぼえておいてください。みなさんの家が「たいしん」ならば、近いしょう来やってくる「東海地しん・東南海地しん・南海地しん」でもへっちゃらです。今すぐ「たいしん」できなくても、家はいつかかならず直したり、たてかえたりします。また引っこしをする場合もあります。でも、その時にはぜったいに「たいしん」のことをわすれないでください。それはみなさん一人ひとりの大切な「いのちをまもる」ことにつながるからです。



● 「てんとうぼうし」=家の中をあんぜんにしよう



「たいしん」のおかげで家は大じょうぶでも、家の中の家ぐなどをしっかりこていしておかないとたおれてきます。「てんとうぼうし」という言ばもおぼえておいてください。また「たいしん」は大工さんやけんちくしさんなど、せんもん家におねがいしなければできませんが、「てんとうぼうし」は家ぞくなどできょう力をすればできることです。このこともみなさん一人ひとりの大切な「いのちをまもる」ことにつながります。

● おじいちゃんやおばあちゃんに聞く

いま やく ねん くらい まえ まち じ とき
今から約70～80年位前にわたしたちの町は 地しんにおそわれました。その時、おじ
いちゃんやおばあちゃんはどんな たい けんをしたんだろう。また、地しんは じ 地めんによつ
てゆれ方がちがってきます。いま みなさんがすんでいる ば 場しょが、むかしは いけ 池だったか
も知れません。やま きを切りひらいて かい はつした ところ かもしれません。ですから、ち
いきのことをよく知っている、おじいちゃんやおばあちゃんにこれらのことをきいてみよう。
もっとくわしく知りたい人は、と しょ かん 図書 かん であらべたり、せん せい 先生 や やく ば 市 やく しょ の 人 に
きいてみよう。



● お友だちやおとなりさんにも教えてあげよう

「たいしん」や「てんとうぼう
し」の大切さが分かってきた
よね？では、つぎは学校のお
友だちに、また 近じよの 人 に、
このことを教えてあげよう。だつ
て、お友だちや おとなりさん
のいのちも、みなさんと同じ
ように大切だからね。なまず
が あばれ 出 す 前に。





チェックリスト

チェック1
 地しんは多くの人の大切ないのちを、
 うばってきたことがわかりましたか？

はい いいえ

チェック2
 地しんは人間の力で止められないことが
 わかりましたか？

はい いいえ

チェック3
 近いしょう来「東海地しん・東南海地しん・南海地しん」がおこることがわかりましたか？

はい いいえ



チェック5
 「たいしん」ということばをおぼえましたか？

はい いいえ

チェック4
 地しんでなくなった人の多くは、家や家ぐがたおれてきたためであったことがわかりましたか？

はい いいえ

チェック6
 あなたの家は「たいしん」ですか？

はい いいえ

チェック7
 「てんとうぼうし」ということばをおぼえましたか？

はい いいえ

チェック8
 あなたの家は「てんとうぼうし」ができていますか？

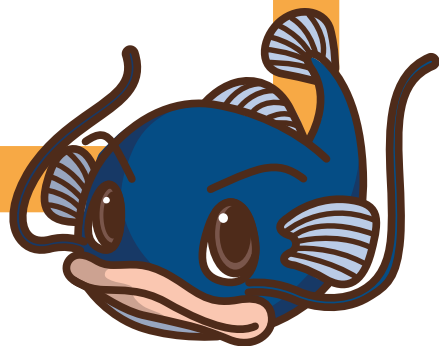
はい いいえ

チェック10
 あなたが学んだことをお友だちやおとなりさんに教えてあげましたか？

はい いいえ

チェック9
 むかしの地しんのことや地いきのことをおじいちゃん・おばあちゃんなどに聞きましたか？

はい いいえ



すべてのしつもんに「はい」がついたかな？もし「いいえ」がある場合は、「はい」にかえられるようにしましょう。

保護者の方へ

○「耐震」について

昭和56年5月31日までに着工された木造住宅にお住まいの方は、住宅の耐震性について専門家の無料耐震診断を受けられます。また、「倒壊の可能性がある」と診断され、耐震改修工事を行う場合は、工事費用の補助が受けられます。いずれもお住まいの市町村役場に相談してください。なお、木造以外の住宅についても、耐震診断や耐震改修工事費用の補助を行っている市町村もありますので、お住まいの市町村役場へお問い合わせください。

○「転倒防止」について

家具などの転倒防止については、ホームセンター等で留め具等が購入できるほか、取り付け方法やポイントなどは以下のホームページ等をご参照ください。

<http://www.pref.aichi.jp/bousai/katei/index.html>

<https://www.fdma.go.jp/publication/database/kagu/post1.html>

○愛知県防災学習システム

ご自宅の地盤、東海・東南海地震での揺れや被害の予測を知ることができます。お子さんとともにぜひお試しください。

<http://www.quake-learning.pref.aichi.jp/>



【地震となまずについて】

日本では、昔から「なまずが暴れると大地震が起きる」と言い伝えられています。江戸時代のはじめごろには人々はそう信じていたようです。なまずが暴れて人々が驚いている絵もたくさん残され、また、なまずが暴れるのを鎮めたとされる「要石(かなめいし)」も多くの神社に納められています。このような経緯から、本冊子は、地震を表す象徴となまずを使用しました。

出典：IPA「教育用画像素材集サイト」 <http://www2.edu.ipa.go.jp/>

発刊の願い

日本に住んでいる限り、地震から逃げることはできません。もしも私たちが原始時代のような生活をしていたら、地震が起きても壊れるものはありません。ですが、今のまちには、たくさんの家が建ちならび、部屋の中は家具で囲まれています。家が弱ければ、地震の揺れで家が壊れ、生きる場所や生活する場所を失います。家具が留めてなければ倒れ、その下敷きになります。壊れた家からは火が出やすく、近くに家があれば、燃え広がります。ですが、家を強くし、家具を留めれば、被害はいくらでも減らすことができます。

大きな地震と必ず出会う子供たちに、この素晴らしい社会を受け継ぐには、地震に負けないまち、「耐震まちづくり」を進めなければいけません。子どもたちが、地震や耐震化のことに関心を持ってくれば、子供から親へ、祖父母へ、そして地域の人へと、耐震まちづくりの輪が広がります。地震が来ても子供たちが明るい顔をしていられるように、この教材を活用して、安全で安心なまちを作っていきましょう。

あいち耐震まちづくり教育枠組み検討委員会座長
名古屋大学大学院環境学研究科教授 福和伸夫

委員

名古屋大学大学院環境学研究科准教授 護 雅史
株式会社日設工務一級建築士事務所所長 牛田信彦
特定非営利活動法人夢netはんだ理事長 松見直美
パブリック・ハーツ株式会社代表取締役 水谷香織
瀬戸市教育部学校教育課 高浜市地域協働部生活安全グループ
愛知県防災局防災危機管理課 愛知県教育委員会事務局健康学習課
愛知県建設部建築担当局建築指導課
(発刊当時)

[親子向け]

初版発行日：平成20年12月7日(昭和19年・東南海地震より64年の日)

発行者：愛知県

建築局公共建築部住宅計画課防災まちづくりグループ

〒460-8501名古屋市中区三の丸3-1-2

TEL:052-954-6549 FAX:052-961-8145

E-mail:jutakukeikaku@pref.aichi.lg.jp

原案・企画：特定非営利活動法人 レスキューストックヤード

デザイン：株式会社インテリジェンス